

開催概況

日時：平成29年10月31日（火曜日）
午後7時00分から8時30分
会場：東京都医師会 2階講堂
参加人数：34人（うち傍聴者16人）

参加団体等

- 区市町村
- 地区医師会
- 在宅医
- 病院
- 病院協会
- 歯科医師会
- 薬剤師会
- 看護協会
- 介護支援専門員研究協議会
- 老人保健施設協会
- 保険者協議会

主な意見交換の内容

【在宅療養に関する地域の現状・課題等について】

- 区東部において医療資源について、足りていないという声はない
- 在宅医療の需要増加が見込まれているが、医師の高齢化や24時間対応が課題になる
- 在宅専門医療機関が増加してきている
- 外来と訪問診療を行う診療所の場合、夜間や診療中の対応が課題。地域でチームとして24時間対応する体制や、在宅専門医療機関との連携が必要
- 多職種連携は、実感としてだいぶ進んできている
- 在宅療養支援窓口の機能を再整理し、コーディネートの役割を強化していく予定
- 患者やその家族が、在宅療養を希望しないということも多く、在宅療養に関する患者・家族への理解促進が重要
- 個人情報の取扱い等、情報共有に関するルール作りが必要

【地域と病院の連携について】

- 紹介状のみで患者が診療所に帰ってくることもある
- 区東部は退院調整部門の設置が少ないとのデータがあるが、全般的に退院支援は十分取り組まれていると感じている
- 退院前カンファレンスは、実施されているが、在宅医が参加できていない。在宅医側の意識があまり高くない場合や、病院側の都合でカンファレンスの日程が組まれていることが原因ではないか
- 独居や経済的困窮などの困難事例において、MSWのみでは対応に限界があり、地域の関係者と連携した取組が必要
- 病院の看護師は、介護に関する知識を持っていない
- 医療や介護だけでなく、生活のサポートを併せて行うことが重要
- 病院とクリニックの会議を始めたことにより、連携がとれるようになってきた